

平成28年度 胎内市生活科部 活動報告

部長 高橋 遼太郎

1 研究主題

体験と言語活動をとおして、学びを深める子どもの育成

2 研究の概要

- ・ 研究主題に沿った講義や授業研究をとおして、部員の授業力向上を図る。
- ・ 総合的な学習の時間と合同で研修することで、生活科と総合的な学習の時間の接続の図り方を考える。

3 研究の実際

(1) 第1回部会 「事業計画の立案」 会場 胎内小学校 16:00～ 参加者10人

(2) 第2回部会 「講話」 会場 黒川小学校 14:00～ 参加者9人

① 講師 本田 泉 先生 (新潟市生活科マイスター 新潟市立小須戸小学校)

② 概要

「学びを深めるための手立てと評価」という演題で講演をしていただいた。生活科の深い学びを実現するためには、「学びのストーリーの創造」「評価計画の作成と活用」「子どもの学びを見取る」の3つの手立てがあるということを学んだ。生活科の教科書の子どものワークシートと、実際の子どものワークシートを比較したり、自分ならどんな評価をつけて、どんなコメントをするか話し合ったり、参加者が主体的に「深い学び」について考えられる講演だった。

(3) 第3回部会 「授業研修」 会場 きのと小学校 14:00～ 参加者8人

① 授業者 齋藤 俊典 先生 (きのと小学校 教諭)

② 単元名 生活科「つくってあそぼう」

③ 指導者 田中 範克 校長先生 (築地小学校)

④ 協議題

ア 授業の導入場面で、子どもの願いを授業者が把握し、意図的に指名したことは、本時の課題をつかみ、おもちゃの改善方法の見通しをもつことができたか。

イ 授業の展開場面で、授業者が子どもの願いが共通しているグループを作り、話し合せて活動させることは、友達に改善策を話したり、聞いたりして、おもちゃを改善することにつながることができたか。

⑤ 概要

前時までに子どもたちは「洗濯ばさみシューター」「風で動く車」「ティッシュガン」の3種類の中から1種類選んで制作をしていた。本時では、そのおもちゃについてグループで相談して更なる工夫をする活動を行った。遊びながら気付いたことを生かし、友達と相談して自分の作ったおもちゃを改善したり、遊び方を考えたりすることをねらいとした。

⑥ 指導

子どもたちが今学んでいることは、何のために学び、何につながるのかを、教師は意識しなければならない。本時のねらいを明確に定め、児童の行動を認め価値付けることで、児童の学びとなる。本時では、児童の思いや願いを大切に、友達同士でかかわせることで、教師の意図以上の学びが生まれた。さらに、生活科でも総合でも、「将来」「社会(生活)」「自分」とのつながりを子どもに伝え意識させることで、キャリア発達が促されるということ学んだ。



3 成果と課題

- ・ 体験と言語活動をとおして、学びを深める子どもを育成するためには、教師が子どもを正確に評価しなければならない。そのためには、明確な評価基準を設定し、子どもの言葉を価値づけることが大切である。そうすると、子ども同士のかかわりが生まれ、さらに学びが深まっていくことが分かった。
- ・ 教師と子どもたちの願いがずれているということがあった。生活科では特に子どもの発達段階から子どもの願いや言葉を大切に読み取り接することが大切である。